

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970900142		
法人名	有限会社 ワンカラ		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	高知県宿毛市港南台2丁目9-25		
自己評価作成日	平成25年1月29日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は、利用者様が落ち着いてゆったりマイペースで生活できるように配慮しています。  
医療との連携も重視し、利用者様の健康には管理者でもある看護師が24時間対応できるようにしており、看取り介護にも対応しています。  
職員には様々な研修を行い、介護技術の向上を計っています。  
地区の行事にも参加して、地域とのつながりを大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3970900142-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3970900142-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成26年2月25日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、海に見える高台の住宅団地の一角にある。利用者と職員の表情は明るく活気があり、職員は利用者に尊敬の気持ちを持って身内のような親しさで接し、利用者からも職員を気遣う言葉がけがあるなど、理念にある「家庭的」で「ゆったり」とした生活が実践されている。管理者は、職員の資質向上のため社内研修だけでなく外部研修にも積極的に参加させ、事業所の活動状況を発表すること等により、職員のやる気を引き出しながらサービスの質の向上を図っている。また、管理者は看護師の資格を活かし、職員と共に家族、協力医と連携して事業所内での看取りを行い、利用者が安らかに最期を迎えられるよう取り組んでいる。利用者のこれまでの暮らしを継続するため、日常生活動作の低下予防にも取り組み、散歩を日課にして全員が天候の許す限り毎日出かけている。外気に触れることで利用者や職員の活気を引き出し、利用者本位の支援の実現に取り組んでいる。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で地域との関係を重視する理念を職員全員で共有し、カンファレンス等では理念に沿ったケアができるように、職員で具体的に話し合っている。	家族的で礼節のある態度で接し、心身の安心が得られる生活と地域等との関係継続を大切にするという理念を掲げ、職員会で確認しながら共有を図っている。職員は利用者と同じ目線の高さで話を聞き、尊敬の気持ちで接することにより、利用者主体の支援に努め、理念の実践につなげている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩や地区の行事に参加して、地域の方と挨拶を交わしたり、回覧板も利用者ともまわしている。職場体験学習で、地元の中学生を受け入れている。毎月「花みずき便り」を配って、地域に情報発信している。	自治会に加入し、地区の防災訓練には利用者全員が参加している。日課の散歩の時や回覧板を回す時は挨拶を心がけ、事業所だよりを毎月配布するなど、利用者や事業所を周知することに努めているが、日常的な交流には至っていない。	地域住民が気軽に立ち寄り、遊びに来たりと日常的に交流できる事業所になるため、運営推進会議を活用して取り組みを協議するなど、地域とのつながりを深めていくことを期待したい。
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「花みずき便り」を配り、認知症や介護保険等について情報提供し、介護相談等にも随時対応していると地域に呼びかけている。AEDを設置して、地域の方にも使えるようにしている。地区の歩道の草引きや花壇作りもしている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、行政・地域包括支援センター・民生委員・自治会長・市議会議員・利用者家族等に参加して頂き、グループホームの情報を報告し、様々な意見等をもらうようにしている。	運営推進会議は、事業所から状況報告や情報提供が行われ、メンバーから質疑や意見が出されて双方向的な会議になっている。外部評価結果も報告されているが、結果に対する意見交換には至っていない。また、目標達成計画は報告されていない。	外部評価結果と共に目標達成計画を会議で報告して意見を求め、また、議題に適した関係者の参加依頼も行いながら、会議の一層の活用を図り、得られた意見をサービス向上に活かすことを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者やホーム運営の件で随時相談し、指導やアドバイスをもらえる関係づくりに努めている。	運営推進会議や介護認定調査時、生活保護に関する相談時、また、年1回のグループホーム連絡会等の機会を通じて連携を図り、相談しやすい関係を築いている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が拘束を受けずに自由な生活が出来るように、鍵をかけず、車椅子のベルト着用やベッドを柵で囲む等は行わず、同時に安全面にも配慮して、職員による見守りを徹底している。全職員を対象に、定期的に虐待に関する社内研修を行っている。	職員は、身体拘束や虐待に関する年1回の社内研修と県が実施する外部研修に参加して弊害を理解し、見守り等による身体拘束をしないケアを実践している。拘束感のない言葉がけにも取り組み、管理者が気になる点は申し送り時に口頭で伝え共有している。地域の見守り協力もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファレンス等を実施し理解の浸透や順守に向け実施している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同会社内施設での成年後見制度の実際の手続きをした例を通して、機会ある都度話している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	長時間になり申し訳ないが特に利用料金(前もって話している場合が多い)、重度化、看取りなど将来的な状況についても十分説明し、同意あるいは考えていただくようにしている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時、来訪時、家族会等でお尋ねし、何でも言ってもらえるように普段からの関係性を強めて話しあえる雰囲気作りを中心に掛けると共に、意見はカンファレンス等にも生かし改善している。	利用者の思いは日々の関わりの中で聞き、家族には面会時のほか、居宅訪問時に意見を聞いている。年2回食事会を兼ねて家族会を行い、家族のみの話し合いや無記名のアンケート調査も実施しているが、意見、要望は出ていない。苦情があった場合は、マニュアルに沿って対応している。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や悩みごとなど話や意見は聞くように心がけているが、言いにくい部分や事由もあると思われるので全部は把握しきれていないと思う。	管理者は、毎月の職員会や年1回の個人面接時に職員の提案や意見を聞いている。提案により、昼休みを取りやすくするための勤務時間の変更や、利用者の希望に応じた安全な入浴支援のための職員配置等に対応し、運営に反映させている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、新任・現任に応じてなるべく多くの職員が受講できるように計画している。又、社内研修の機会も多く持つようにし、ホーム会の中でも伝達研修をしている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会の会に出席したり、高知県のグループホーム連絡会にも、毎年準備会から出席している。研修会にも毎年参加して質の向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問して面談したり、家族様と一緒に訪問して下さったりし、少しでも安心の得られるよう本人と対面・お話をする等により受け入れていただけるように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談し生活状況を把握して、サービスの利用について相談があった時は必ず訪問し、本人と会って心身の状況、思いなど受け止め関係作りに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは家族の求めているものを理解する。その上で対応を考えお伝えしている。家族の苦労話をゆっくり聞くなどして、信頼関係を構築してゆくことにしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いやその中に見られる苦しみや不安などを知ること努める、そして支え合う関係を作る。本人及び職員共に協働しながら和やかな生活ができるよう声かけや場面作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の想いが徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築けることが多く、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、家族と同じような思いで支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行き続けている利用者や、一人ひとりの生活習慣を尊重している。地域の交流の為避難訓練には参加している。毎月なじみのスーパーに買い物に行っている。	利用者の希望に応じて、毎月馴染みのスーパーで買い物をしたり、行きつけの美容院を利用する支援をしている。また、系列会社が実施するデイサービスへの参加、年1回の利用者全員での買い物等の機会や彼岸の墓参り、初詣等を通じて、馴染みの人との交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。利用者同士の関係性について情報交換し、すべての職員が共有できるようにしている。また一緒に食事やお茶を飲みながら関係の円滑を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた場合、アセスメント、ケアプランや支援状況等を手渡すとともに情報交換を行い、馴染みの職員が機会を作って訪問に行くなどしている。また、家族様よりその後の情報を得たりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などから、その真意を推し測ったりそれとなく確認するようにしている。家族様からも情報を得よう努めている。	利用者の意向は、レクリエーション等でくつろいでいる時や日々の関わりの中で聞くとともに、利用者の表情や行動からも把握に努めている。意思疎通の困難な利用者は、表情や態度で思いを推察し、家族からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活背景を知れば知るほどその人の理解も深まるので、本人はもとより家族様、知人などからも情報を得て力を借りる事を継続的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の流れで変化があれば記録して、職員間で情報を引き継ぎ、定期的なカンファレンス等で職員間で対応について話し合う機会を持っている。 バイタルも毎日チェックして記録している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議では、本人や家族の希望を聞き、介護計画を作成している。 本人の状態に変化があれば、カンファレンス等で職員間で話し合い、随時計画の見直し・変更を行い、アセスメントやモニタリングも全職員から話を聞いている。	ケアマネジャーが利用者にアセスメントし、担当職員、利用者、家族が参加した会議で検討し、介護計画を作成している。家族が参加できない場合は、担当者と管理者が訪問して意向を確認している。モニタリング、計画の見直しは、3～6ヶ月毎に職員全員で実施し、状況変化時は、その都度見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に食事、水分、排泄、バイタル等細かな記載をし、職員間で情報が共有できるようにしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調に応じて、通院が必要な場合には迅速に対応し、家族に代わって受診同行する事もある。 希望者には、担当職員が付き添って買い物に行っている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、市役所・地域包括支援センター・地域の自治会長・民生委員等の方に出席していただき協力関係を築いている。 本人の馴染みの美容院等にも行っている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に利用者と家族の希望する病院をかかりつけ医にしている。訪問診療に来てもらうケースもあり、受診も職員が同行する事が多い。	入居前のかかりつけ医を継続して受診している。受診は家族対応を基本にし、必要な時に職員が支援している。受診結果は家族や主治医に電話で聞き、記録して職員間で共有し、職員が受診を支援した家族には、面会時や手紙で報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を配置している為、利用者様に異常があれば報告し、適切な対応が出来るよう早期発見に努めている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を提出し、又職員が交代で4、5日に1回はお見舞いで病院関係者とも面接し情報を得ている。早目の退院ができるようアプローチしている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様、家族様の気持ちを踏まえた上で、医師、看護師、職員が連携して安心した最期を迎えられるように取り組んでいます。	入居時に看取りの指針を説明し、家族等の意向を確認している。利用者の状態の変化に伴い、その都度方針を説明し意向を再確認している。協力医、看護師、職員が連携して、自宅と同じように家族や他の利用者も一緒に見守り、これまで数名の看取りを行っている。職員研修も、DVD等を活用して行っている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、全職員が年に1～2回は応急手当や心肺蘇生法などの研修を受けている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年に2～3回避難訓練を昼、夜と行っている。地域全体の訓練にも参加しており協力体制を取っている。	消防署の協力を得て火事と地震を想定した避難訓練を年2回実施するほか、夜間を想定した自主訓練も年1回行っている。消火器等の設備点検を年2回行い、非常用食料や備品は、1週間分備蓄している。しかし、避難訓練への地域住民の参加は得られていない。	運営推進会議のメンバーに避難訓練への参加協力を依頼するなど、運営推進会議を活用した取り組みを検討し、地域住民の協力を得た訓練の実現を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助が必要な時は、まず本人の気持ちを一番に考え、その方が自己決定できる様なケアや心がけをするようにしている。	表情や動作を察知して行うトイレ誘導には、さりげない声かけで他に気づかれないようにしている。利用者の話は決して否定せず傾聴し、自尊心を傷つけない対応をしている。日頃から、利用者のプライバシーに関することを人前で話さないよう徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思確認をした上で決めて頂いている。言葉などで意思表示できない方には表情などで読み取っている。本人が答えやすく選びやすいように働きかけをする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの様子を見ながら散歩へ行ったり、イベントへの参加や買い物など本人に相談しながら行っている。行事については一定の規則性がある。休息したい方にはその場面を有効に使用して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は本人と一緒に選んだり外出する時は(帽子・マフラー・手袋等)本人の好みの服装で出かけて頂いている。本人馴染みの美容院へ行って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付け等利用者と共に行い(お盆に食べ終わった食器を入れて頂いたり)職員と利用者が同じテーブルを囲んで毎日楽しく食事しています。ランチョンマットや箸などを配って下さっている。	食事は業者に委託し栄養士が献立しているが、行事の時などに利用者の好みを取り入れている。利用者は料理の下ごしらえや台拭き等できることに参加している。利用者が自宅で使用していた茶碗、コップ、箸を使用し、利用者と職員は同じ物を一緒に食べて食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を日誌に記録し把握している。おやつ・果物などを工夫している。食事の量も個々に確認し、毎週体重測定を行っている。栄養士による献立を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面所への声かけ行い見守りしている。自分で出来ない方は利用者へ配慮しながら口腔ケアの手伝いをしている。嚥下体操や唾液腺マッサージも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能に応じて介助を行っている。一人ひとりに合った紙パンツ・パッドを検討している。排泄のチェック表を使用して誘導を行っている。夜間起きて来られない方には声かけを行い、誘導してトイレで排泄してもらっている。	布パンツを使用して排泄が自立している利用者以外は、大半が布又は紙パンツに尿取りパッドを併用している。排泄チェック表で排泄パターンを把握し、立位をとれない利用者を除いて、昼夜ともトイレでの排泄を支援している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方には出来るだけ水分補給していただいている。また腸の動きを良くするために、散歩などで積極的に歩いて頂いている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を聞いて、入浴したい時間に入浴していただいている。同じ方がずっと同じ時間に入らないように順番を変えて入浴していただいている。	利用者の希望に応じて、毎日入浴を支援している。利用者の状態に応じて、利用者が楽に入浴できるようチームで支援している。入浴を拒む利用者には、気持ちに配慮した言葉がけを工夫し、入浴につなげている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よく眠りにつけるよう、日中の活動に配慮している。睡眠剤を飲まれている方には睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないかを確認している。寝付けない時は一緒にお茶などいただき話をしている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをケース毎に整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているか確認している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダーの日付を変えたり、洗濯たたみなどお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。ドライブや初詣に行かれたり楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、外食、お弁当を持って戸外に出かける等、積極的に外出している。その日のお天気で本日のお出かけを計画し、ドライブ、お買い物に行っている。	散歩を日課にし、利用者の下肢筋力の低下予防にも役立っている。年1回、利用者の家族も一緒に外食に出かけている。初詣のほか弁当やおやつを持参してピクニックやドライブに年5～6回出かけている。外出は、車いすの利用者も一緒に全員で出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際、自分でお金を払っていただけのようにお金を手渡す等の工夫をしており、社会性の維持につなげている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書きお出しする支援をしている。プレゼントのお礼や近況報告なども行っている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁はアクティビティで利用者と一緒に装飾したり、左右には花を欠かさず飾って季節感を採り入れたりしている。	居間の壁には、季節にちなんだ飾り物があり、中学生が福祉体験時に書いた利用者の似顔絵やぬり絵の作品が貼られている。季節の花を活け、また、テレビ台に古い家具を利用し、明るい色調のソファを配置する等、家庭的で居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの端にソファを置き、仲の良い利用者同士でくつろぐスペースがある。また一人で居る時などは事務所横に一人掛けのソファも用意し、落ち着けるスペースもある。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔使っていた品を持ちこまれ、壁には思い出の写真を飾るなど居心地の良さに配慮している。	居室は、自宅で使用していた寝具や小物入れを置き、壁には家族写真が貼られている。備え付けの整理筆筒には、鏡や好みのぬいぐるみ、造花の鉢等を置き、家庭にいる時と同じ雰囲気、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせた手すりの設置等、状況に合わせて環境整備に努めている。一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印をつけたりしている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				